

秋田県考古学関係文献抄録(1) —須恵器・瓦—

利 部 修*

1981(昭和56)年に秋田県埋蔵文化財センターが設置されてから今日まで、市町村の発掘調査機関の増加とともに発掘調査件数が増加してきている。開発行為に伴う対応策が同時に、県民の考古学・歴史学に対する興味と関心を引き起こし、各種歴史研究団体の活動も活発化している。この結果、発掘調査記録・新聞記事・論文等々の記録が生み出され、秋田県の考古学関係文献も他県の劣らず膨大な数にのぼってきた。この後も、将来にわたって多くの文献が累積され続けていくことは確かである。今こそ、秋田考古学の文献目録の必要性が痛感されてならない。

考古学の研究にとって、他の学問と同様に研究史の理解は基礎となる作業である。秋田県の文献目録は1979(昭和54)大友俊和・庄内昭男・富樫泰時によって、1868(明治元)年から1978(昭和53)年までが、発行年月順に人名別索引も付け加えられた形で纏められた(『秋田県考古学関係文献目録』)。冒頭、富樫によって述べられた「私達の研究は私達の先輩が築いた研究の上に成立っている」の一文は、研究を志す者にとって強く銘記されなければならない。

これより以前の1977(昭和52)年には、大和久震平が『秋田県史考古編』の中で「第四節 文献目録」と項目立てを行って、1886(明治19)年～1958(昭和33)年の原始時代を発行年月順に扱った。これに遡る1967(昭和42)年には、奈良修介と豊島昂によって『秋田県の考古学』に主要参考文献と題した1858(文政5)年～1966(昭和41)年にわたる文献目録が記載されている。それは1先史時代、2有史時代、3全般にわたるもの、4市町村史誌等、と時代と書籍の種類によった分類で年代順に掲載したものである。このように、不特定の記述を網羅したりある時代を限定したもの以外に、個別遺跡をとりあげた例として「秋田城関係文献目録」(『昭和55年度秋田城跡発掘調査概報』1981)や「弘田柵跡関係文献目録」(『弘田柵跡—政庁跡—』1985)がある。

本文では須恵器と瓦をとりあげる。つまり、時代と遺物を限定した個別テーマである。個別テーマの設定による文献目録は、新たに研究を深化させようとする後進にとって、文献収集に費やす時間を節約できる試金石である。ひいては考古学研究者の裾野を拡大し、研究の進展に大いに役立つ。今後、分野・時代・遺跡・遺構・遺物などをテーマに文献抄録の回数を重ねたいと思っているが、その積み上げによって秋田県の考古学関係文献の全体像に少しでも近づき、本県考古学における研究史の基礎的資料にしたいと考えている。掲載文献の誤謬や遺漏もあると思われる、大方の助言と情報を賜わりたい。そして、各時代を専門にしている研究者の間で、その個別ごとのテーマによる文献目録作成の気運が高まることを期待したい。

なお須恵器と瓦について、窯跡以外の報告書の掲載は行わない。ただし、横手市オホン清水北遺跡(1984)からは5世紀代の須恵器が1点出土しており、例外として扱った。また、緑釉・灰釉陶器を今回の抄録に含むことにする。

*秋田県埋蔵文化財センター調査課秋田北分室 学芸主事

<1932(昭和7)年～1998(平成10)年>

1932. 12. 大山 宏「秋田城址について」『秋田県史蹟調査報告』第一輯 秋田県史蹟名勝天然記念物調査會
1954. 4. 武藤鉄城「秋田県仙北郡九十九沢窯跡」『日本考古学年報』2(昭和24年度) 日本考古学協会
1957. 9. 上法香苗「秋田市上新城の古代窯址群について」『秋田考古学』第8号 秋田考古学協会
1957. 9. 奈良修介「金足堀内出土の須恵器」『秋田考古学』第8号 秋田考古学協会
1957. 9. 伊藤種秋「秋田市高清水採集土器」『秋田考古学』第8号 秋田考古学協会
1958. 5. 小武海松四郎「井川村南台における土師須恵の骨壺について」『秋田考古学』第10号 秋田考古学協会
1958. 5. 伊藤種秋「由利郡由利村小菅野採集土器」『秋田考古学』第10号 秋田考古学協会
1958. 5. 豊島 昂「調査略報三項」『秋田考古学』第10号 秋田考古学協会
1958. 奈良修介「秋田城址出土の文様瓦」『秋田考古学』第11号 秋田考古学協会
1958. 上法香苗「秋田城址の瓦類について」『秋田考古学』第11号 秋田考古学協会
1958. 12. 上原甲子郎「東北地方における緑釉陶片の新例」『考古学雑誌』第44巻第2号 日本考古学会
1959. 4. 小武海松四郎「墨書須恵器(坏)の一例」『秋田考古学』第12号 秋田考古学協会
1960. 7. 上法香苗「南秋田郡天王町地域の古代土器」『秋田考古学』第15号 秋田考古学協会
1961. 6. 磯村朝次郎「脇本飯森家屋埋没遺址調査概報」『秋田考古学』第18号 秋田考古学協会
1961. 11. 奈良修介・豊島 昂「秋田県南秋田郡五城目町「岩野山古墳」」『秋田考古学』第19号 秋田考古学協会
1963. 3. 大和久震平「平鹿郡雄物川町末館窯址発掘調査報告」『横手郷土史資料』第35号 横手郷土史編纂委員会
1964. 7. 男鹿市「第二節 秋田城時代の男鹿」『男鹿市史』男鹿市
1964. 7. 内藤政恒「須恵器利用の硯について」『考古学雑誌』第50巻第1号 日本考古学会
1965. 5. 高橋一夫「羽白目遺跡出土の布目瓦について」『秋田考古学』25 秋田考古学協会
1965. 12. 山下孫継「第五章 奈良・平安時代の土器及び銅鉄器」『湯澤市史』湯澤市史編さん会事務局
1967. 2. 奈良修介「二 住居跡・窯跡出土遺物」『秋田県の考古学』吉川弘文館
1967. 2. 奈良修介「三 城柵出土遺物」『秋田県の考古学』吉川弘文館
1967. 2. 奈良修介「九 土師器・須恵器編年」『秋田県の考古学』吉川弘文館
1967. 3. 大川 清「(4) 七窪B地区」『足田遺跡発掘調査概報』秋田県文化財調査報告書第10集
1967. 7. 倉田芳郎・坂詰秀一「二 古代・中世窯業の地域的特質—(1) 東北・関東」『日本の考古学』歴史時代(上) (株)河出書房新社
1967. 7. 岩見誠夫「高野出土の墨書土器」『秋田考古学』第26号 秋田考古学協会
1968. 12. 門間光夫「羽白目秋田城外壘烽遺跡について」『秋大史學』16 秋田大学史学会
1972. 2. 岩見誠夫「南秋田郡若美町海老沢出土の須恵器に関して」『秋田考古学』第30号 秋田考古学協会

学協会

1973. 5. 伊藤鉄太郎「須恵器編年考」『土器と城郭』
1974. 3. 鍋倉勝夫「5. 城神廻り地区出土須恵器の再検討」『足田遺跡第7次発掘調査略報』羽後町教育委員会
1975. 3. 秋田県教育委員会『城土手遺跡緊急発掘調査報告書・海老沢窯跡緊急発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第32集
1976. 3. 秋田県教育委員会『成沢遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第36集
1976. 3. 横手市教育委員会『郷土館窯跡』横手市教育委員会
1976. 8. 日野 久「秋田城跡出土土器(2) 一須恵器杯(台付杯)について一」『秋田考古学』第33号 秋田考古学協会
1976. 10. 小松正夫「秋田城跡出土瓦について」『東北考古学の諸問題』東北考古学会
1977. 4. 奈良修介「第三節 土師器・須恵器の編年」『秋田県史 考古編』株式会社加賀谷書店
1977. 4. 奈良修介「第五節 窯址」『秋田県史 考古編』株式会社加賀谷書店
1977. 4. 奈良修介「一 秋田城の瓦」『秋田県史 考古編』株式会社加賀谷書店
1977. 11. 八郎潟町史編纂委員会「第三節 弥生、土師・須恵器の遺跡」『八郎潟町史』八郎潟町
1978. 1. 石郷岡誠一「秋田城跡出土土器(3) 一須恵器(蓋)について一」『秋田考古学』第34・35合併号 秋田考古学協会
1978. 3. 本荘市教育委員会『葛法窯跡分布調査報告書』本荘市文化財調査報告書第2集
1978. 沼山源喜治「東北北半部」『歴史時代土器の研究一東日本に於ける土器編年一』歴史時代土器研究会
1978. 小松正夫「秋田県(旧羽後地域)」『歴史時代土器の研究一東日本に於ける土器編年一』歴史時代土器研究会
1979. 3. 板橋範芳「第一節 土師器文化の波及」『大館市史』第一巻 大館市史編さん委員会
1979. 12. 矢島町史編纂委員会「第五節 土師器と須恵器」『矢島町史』上巻 矢島町
1980. 10. 島田亮三「一節 古墳及び大和時代以降」『雄物川町郷土史』雄物川町郷土史編纂会
1981. 2. 杉渕 馨「物見窯跡について」『秋田地方史論集』みしま書房
1981. 12. 岩見誠夫「三、海老沢窯跡」『若美町史』若美町史編さん委員会
1982. 3. 山崎文幸「仙北町の遺跡紹介」『字母連木』第9号 うもれ木編集委員会
1982. 11. 柳沢弘志「第一節 古代の文化」『鹿角市史』第一巻 鹿角市
1984. 3. 日野 久「秋田城跡第三十六次調査出土の漆紙文書」『秋大史學』30 秋田大学史学会
1984. 3. 横手市教育委員会『オホン清水～第3次遺跡発掘調査報告書～』横手市文化財調査報告10
1984. 6. 庄内昭男「考古部門展 古代の窯跡」『博物館ニュース』No.46 秋田県立博物館
1984. 9. 西鳥羽礼子・小松正夫「四、秋田城跡出土墨書土器集成」『秋田城跡発掘調査事務所研究紀要・秋田城出土文字資料集』秋田市遺跡保存会・秋田城跡発掘調査事務所
1984. 9. 富樫泰時「四 中山丘陵西麓の窯跡群」『平鹿町史』平鹿町史編纂委員会
1984. 11. 三辻利一・桜田 隆「土井遺跡出土須恵器の胎土分析」『秋大史學』31 秋田大学史学会
1985. 3. 庄内昭男「平鹿郡平鹿町中山窯跡発掘調査概要」『秋田県立博物館研究報告』第10号 秋田

県立博物館

1985. 3. 山崎文幸「第Ⅴ章 遺物」『弘田柵跡—政庁跡—』秋田県文化財調査報告書第 122 集
1985. 3. 船木義勝「第 2 節 遺物」『弘田柵跡—政庁跡—』秋田県文化財調査報告書第 122 集
1985. 3. 山崎文幸「弘田柵跡出土の文字資料—表採・寄蔵資料—」『字母連木』第 11 号 うもれ木編集委員会
1985. 11. 岩見誠夫・船木義勝「秋田県の須恵器および須恵器窯の編年」『秋大史學』32 秋田大学史学会
1986. 3. 雄物川町郷土資料館「末館Ⅰ・Ⅱ窯について」『雄物川町郷土資料館報告書』第 3 号
1986. 3. 船木義勝「「秋田城跡」についての一考察—8 世紀の土器と施設の創建年代—」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第 1 号 秋田県埋蔵文化財センター
1986. 3. 高橋 学「秋田県内出土の墨書土器集成」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第 1 号 秋田県埋蔵文化財センター
1986. 11. 小武海松四郎「二 井川における土師器・須恵器の分布」『井川町史』井川町史編纂委員会
1986. 11. 小武海松四郎「三 骨蔵器と墨書須恵器」『井川町史』井川町史編纂委員会
1987. 3. 三嶋隆儀・庄内昭男「男鹿市小谷地遺跡の墨書土器」『秋田県立博物館研究報告』第 12 号 秋田県立博物館
1987. 3. 桜田 隆「鹿角盆地に於ける古代土器群の様相」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第 2 号 秋田県埋蔵文化財センター
1987. 3. 若美町教育委員会『西海老沢遺跡発掘調査報告書—昭和 61 年度若美町海老沢地区団体営農道整備事業に係る埋蔵文化財調査—』若美町教育委員会
1987. 10. 小松正夫「まとめ— 2) 須恵器有蓋環形土器について—」『宮崎遺跡発掘調査報告書』西目町教育委員会
1987. 11. 池田正治・高橋 学「由利郡西目町で採集された墨書土器—土の下—の歴史を求めて—」『秋田考古学』第 39 号 秋田考古学協会
1987. 11. 秋田魁新報社「平安後期の“生活”出土」『秋田魁新報』秋田魁新報社
1988. 2. 河北新報社「東北では最大級須恵器の甕出土—大館野遺跡—」『河北新報』河北新報社
1988. 3. 山本哲也「擦文文化に於ける須恵器について」『國學院大學考古学資料館紀要』第 4 号 國學院大學考古学資料館研究室
1988. 3. 羽後町教育委員会『七窪遺跡発掘調査報告書』羽後町文化財調査報告書第 8 集
1988. 10. 朝日新聞社「初の「平瓶」出土—竹原遺跡—」『朝日新聞』朝日新聞社
1989. 3. 秋田県埋蔵文化財センター『一般国道 7 号八竜能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—福田遺跡・石丁遺跡・蟹子沢遺跡・十二林遺跡—』秋田県文化財調査報告書第 178 集
1989. 4. 秋田県埋蔵文化財センター「考古ニュース—竹原遺跡から奈良・平安期の窯跡確認—」『月刊考古学ジャーナル』No.303 ニュー・サイエンス社
1989. 6. 小松正夫「八、九世紀における出羽北半須恵器の特質」『考古学研究』第 36 巻第 1 号 考古学研究編集委員会

1989. 6. 富樫泰時「おもしろ秋田むかし考②」『朝日新聞』朝日新聞社
1989. 8. 能登谷宣康「大曲市蛭川遺跡より採集された遺物について」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第4号 秋田県埋蔵文化財センター
1989. 12. 仙北新聞社「文化財に「横釜」と「熊野の本地」を指定」『仙北新聞』仙北新聞社
1990. 3. 高橋 学「西目町井岡遺跡で採集された遺物について」『秋田考古学』第40号 秋田考古学協会
1990. 7. 新野直吉・船木義勝「序章 古代の北羽」『弘田柵の研究』文献出版
1990. 7. 新野直吉・船木義勝「10 出土遺物」『弘田柵の研究』文献出版
1990. 7. 新野直吉・船木義勝「終章 出羽国府の移転」『弘田柵の研究』文献出版
1990. 12. 渡部誠一郎「第二節 大和朝廷の勢力北上」『秋田市旭川郷土史』秋田市旭川郷土史編集委員会
1991. 2. 利部 修「竹原窯跡」『第17回 古代城柵官衙遺跡検討会』古代城柵官衙遺跡検討会
1991. 3. 櫻田 隆「田久保下遺跡古代窯跡・富ヶ沢A～C窯跡の調査」『平成2年度 秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料』秋田県埋蔵文化財センター
1991. 3. 利部 修「横手盆地の古代窯跡について―竹原窯跡を中心に―」『平成2年度 秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料』秋田県埋蔵文化財センター
1991. 3. 利部 修「竹原窯跡における坏蓋の変化」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第6号 秋田県埋蔵文化財センター
1991. 3. 桜田 隆「須恵器窯の側壁・天井架構材について」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第6号 秋田県埋蔵文化財センター
1991. 3. 秋田県埋蔵文化財センター『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書―上猪岡遺跡―』秋田県文化財調査報告書第208集
1991. 3. 秋田県埋蔵文化財センター『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書―竹原窯跡―』秋田県文化財調査報告書第209集
1991. 3. 秋田県埋蔵文化財センター『七窪遺跡発掘調査報告書―公害防除特別土地改良事業亀田地区に係る埋蔵文化財発掘調査―』秋田県文化財調査報告書第215集
1991. 7. 富樫泰時「第一節 古墳時代」『六郷町史』上巻・通史編 六郷町史編纂委員会
1991. 7. 富樫泰時「第二節 奈良・平安時代」『六郷町史』上巻・通史編 六郷町史編纂委員会
1991. 9. 秋田県立博物館「考古部門展 竹原窯の須恵器」『博物館ニュース』No.85
1991. 10. 船木義勝「秋田市金足大清水出土の須恵器―遺物の新しい情報から―」『土崎史談』31号 土崎史談会
1991. 11. 三浦圭介「古代における東北地方北部の生業」『北からの視点』日本考古学協会 1991年度宮城・仙台大会実行委員会
1992. 2. 小松正夫「秋田城とその周辺地域の土器様相（試案）―第54次調査の木簡・漆紙文書伴出土器を中心に―」『第18回 古代城柵官衙遺跡検討会資料』古代城柵官衙遺跡検討会
1992. 3. 富樫泰時・児玉 準「本荘市上谷地遺跡について―由理柵推定地の調査―」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第7号 秋田県埋蔵文化財センター

1992. 3. 利部 修「竹原窯跡の須恵器編年」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第7号 秋田県埋蔵文化財センター
1992. 3. 小林 克・高橋 学「峰浜村手前谷地尻遺跡出土の遺物について」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第7号 秋田県埋蔵文化財センター
1992. 3. 秋田県埋蔵文化財センター『秋田ふるさと村(仮称)建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—富ヶ沢A・B・C窯跡 田久保下遺跡 富ヶ沢1号～4号塚—』(第一分冊) 秋田県文化財調査報告書第220集
1992. 3. 秋田県埋蔵文化財センター『秋田ふるさと村(仮称)建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—富ヶ沢A・B・C窯跡 田久保下遺跡 富ヶ沢1号～4号塚—』(第二分冊) 秋田県文化財調査報告書第220集
1992. 8. 利部 修「秋田県・横手地方の須恵器編年」『東日本における古代・中世窯業の諸問題』大戸古窯跡群検討会・会津若松市教育委員会
1992. 10. 阿仁町史編纂委員会「第三節 平安時代」『阿仁町史』阿仁町
1992. 10. 巽淳一郎ほか『平城宮・京出土須恵器の分類と産地同定—平成元年～3年度科学研究費補助金(一般研究C)研究成果報告—』
1993. 3. 船木義勝・泉 広宣「秋田市松木台Ⅱ遺跡の須恵器」『秋田県立博物館研究報告』第18号 秋田県立博物館
1993. 3. 利部 修「下藤根遺跡出土土師器の再検討—東北地方北部における位置付けを中心に—」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第8号 秋田県埋蔵文化財センター
1994. 3. 利部 修「払田柵跡の平瓦渦巻文考」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第9号 秋田県埋蔵文化財センター
1994. 6. 小松正夫・日野 久・伊藤武士「秋田城跡出土の胞衣壺」『月刊考古学ジャーナル』No.376 ニュー・サイエンス社
1994. 9. 伊藤武士「大沢窯跡Ⅰ遺跡の須恵器について」『秋田考古学』第44号 秋田考古学協会
1994. 9. 伊藤武士「古城廻窯跡」『平成6年度 秋田考古学協会研究会資料』秋田考古学協会
1994. 11. 八木光則「奥六郡・山北三郡の城と柵」『歴史評論』通巻第535号 歴史科学協議会
1995. 2. 利部 修「横手盆地の古代遺跡と払田柵跡」『第21回 古代城柵官衙遺跡検討会資料』古代城柵官衙遺跡検討会
1995. 3. 高橋 学「秋田県内出土の墨書土器、箆書・刻書土器」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第10号 秋田県埋蔵文化財センター
1995. 3. 利部 修「砂底須恵器の一考察」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第10号 秋田県埋蔵文化財センター
1995. 3. 利部 修「十二林遺跡」『能代市史 資料編 考古』能代市史編さん委員会
1995. 3. 磯村朝次郎「第六節 男鹿の古代遺跡」『男鹿市史』上巻 男鹿市史編纂委員会
1995. 11. 池田明朗・伊藤博幸「第1章 東北古代窯業遺跡の研究史(抄)」『須恵器集成図録』第四巻 東日本編 雄山閣出版
1995. 11. 池田明朗・伊藤博幸「第2章 窯跡の分布—2 各県の窯跡分布と区分」『須恵器集成図録』

第四巻 東日本編 雄山閣出版

1995. 11. 伊藤博幸「第2章 窯跡の分布— 3 須恵器生産の諸段階」『須恵器集成図録』第四巻 東日本編 雄山閣出版
1995. 11. 伊藤博幸「第3章 主要窯跡と須恵器」『須恵器集成図録』第四巻 東日本編 雄山閣出版
1996. 1. 利部 修「北日本の須恵器についての一考察」『考古学の諸相』坂詰秀一先生還暦記念会
1996. 3. 三辻利一・利部 修「竹原窯跡出土須恵器の胎土分析」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第11号 秋田県埋蔵文化財センター
1996. 6. 利部 修「秋田県の9世紀以降の様相」『北陸の9世紀代の土器様相』北陸古代土器研究会
1996. 8. 和泉昭一「二ツ井町の須恵器・土師器新資料紹介」『秋田考古学』第45号 秋田考古学協会
1996. 12. 小松正夫「秋田県の7世紀以前の土器」『日本土器事典』雄山閣出版株式会社
1996. 12. 小松正夫「秋田県の8世紀の土器」『日本土器事典』雄山閣出版株式会社
1996. 12. 小松正夫「秋田県の9世紀の土器」『日本土器事典』雄山閣出版株式会社
1996. 12. 小松正夫「秋田県の10世紀の土器」『日本土器事典』雄山閣出版株式会社
1997. 2. 利部 修「平安時代東北の長頸瓶」『生産の考古学』倉田芳郎先生古稀記念会
1997. 3. 利部 修「出羽地方の丸底長胴甕をめぐって」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第12号 秋田県埋蔵文化財センター
1997. 3. 秋田市史古代部会『古城廻窯跡発掘調査報告』秋田市史叢書1 秋田市史編さん室
1997. 5. 伊藤武士「出羽における10・11世紀の土器様相」『北陸の10・11世紀代の土器様相』北陸古代土器研究会
1997. 6. 高橋 学「第一節 古墳時代の増田」『増田町史』増田町史編纂委員会
1997. 6. 高橋 学「第二節 奈良・平安時代の増田」『増田町史』増田町史編纂委員会
1997. 10. 小松正夫「古城廻窯跡と秋田城」『秋田市史研究』第6号 秋田市史編さん室
1997. 10. 利部 修「北部日本海側における須恵器生産の特質」『日本考古学協会 1997年度大会研究発表要旨』日本考古学協会
1997. 10. 秋田城跡調査事務所「秋田城跡出土土器と周辺窯の須恵器編年(試案)」『蝦夷・律令国家・日本海—シンポジウムⅡ・資料集一』日本考古学協会 1997年度秋田大会実行委員会
1997. 10. 北野博司「古代北陸の地域開発と出羽」『蝦夷・律令国家・日本海—シンポジウムⅡ・資料集一』日本考古学協会 1997年度秋田大会実行委員会
1997. 10. 利部 修「辺境における出羽北半の窯跡出土須恵器」『蝦夷・律令国家・日本海—シンポジウムⅡ・資料集一』日本考古学協会 1997年度秋田大会実行委員会
1998. 3. 利部 修「東北以北の双耳坏と環状凸帯付長頸瓶」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第13号 秋田県埋蔵文化財センター
1998. 3. 伊藤武士「秋田城跡周辺須恵器窯の動向について」『秋田考古学』第46号 秋田考古学協会
(平成10年12月28日)